

中国が PL-10 型空対空ミサイルの試験開始

漢和防務評論 20160203 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、次世代戦闘機 J-20 に搭載する先進型ミサイル PL-10 の試験を行っています。
同ミサイルは、赤外線画像誘導で電子妨害に強く、スラストベクターを採用して機動性が高いミサイルのようです。
漢和によると、中国は、かつて南アフリカ共和国の DENEL DYNAMICS 社に何度も接触し A-DARTER 短距離空対空ミサイルの技術資料を入手したようです。PL-10 のサイズが A-DARTER に相当近いとのこと。

KDR 平可夫ドバイ特電：

ロシア軍事工業界の消息筋は、ドバイ航空ショーで次のように述べた：中国の J-20 ステルス機は、まもなく次の段階の試験に入る。その中にレーダー、武器の試験が含まれる。PL-10 短距離空対空ミサイルは、PL-8 に換わり J-20 に搭載される、と。消息筋は単に射程 20 KM の短距離空対空ミサイルで、赤外線画像誘導である、と述べただけであったが、PL-10 を指したことは明白である。現在、最後の認定試験段階にあるようだ。またある非公式情報によると、PL-10 は長さ 3 M、重量 90 KG、スラストベクター方式を採用、オフボアサイト発射能力がある。PL-10 はすでに何度も発射試験を行っている。

KDR は、今までの経験から、ロシア軍事工業界の中国製武器に対する技術的判断は正確であると考えている。特に中国製戦闘機及び航空武器に対する評価は正確であると考えている。現在、SU-35 の対中輸出協定が締結されたばかりであり、次の段階には、どのような空対空ミサイル、空対地ミサイル、誘導爆弾が SU-35 に付随して輸出されるか交渉の議題に上るであろう。したがってロシアは中国の戦闘機及び武器生産に高度の関心をもっているからだ。

PL-10 の外形から判断すると、欧州の IRIS-T 短距離空対空ミサイル (AAM) の設計に酷似している。KDR が南アフリカ国を取材して得た情報によると、中国は、1990 年代末から、南アフリカ国の DENEL DYNAMICS 社と何度も接触した。中国は、A-DARTER 短距離 AAM の技術を求めた。PL-10 の寸法を詳細に分析すると、A-DARTER に極めて近い。DENEL 社の消息筋は KDR に対し：何度も接触した。中国は一部の技術資料を欲しがった。その後の会談はうやむやになった。同時期、中国は、DENEL 社から武装ヘリ 1 機の購入を求めた。衆知の通り、南アフリカ空軍の GRIPEN 戦闘機は欧州製の IRIS-T AAM を搭載している。

以上